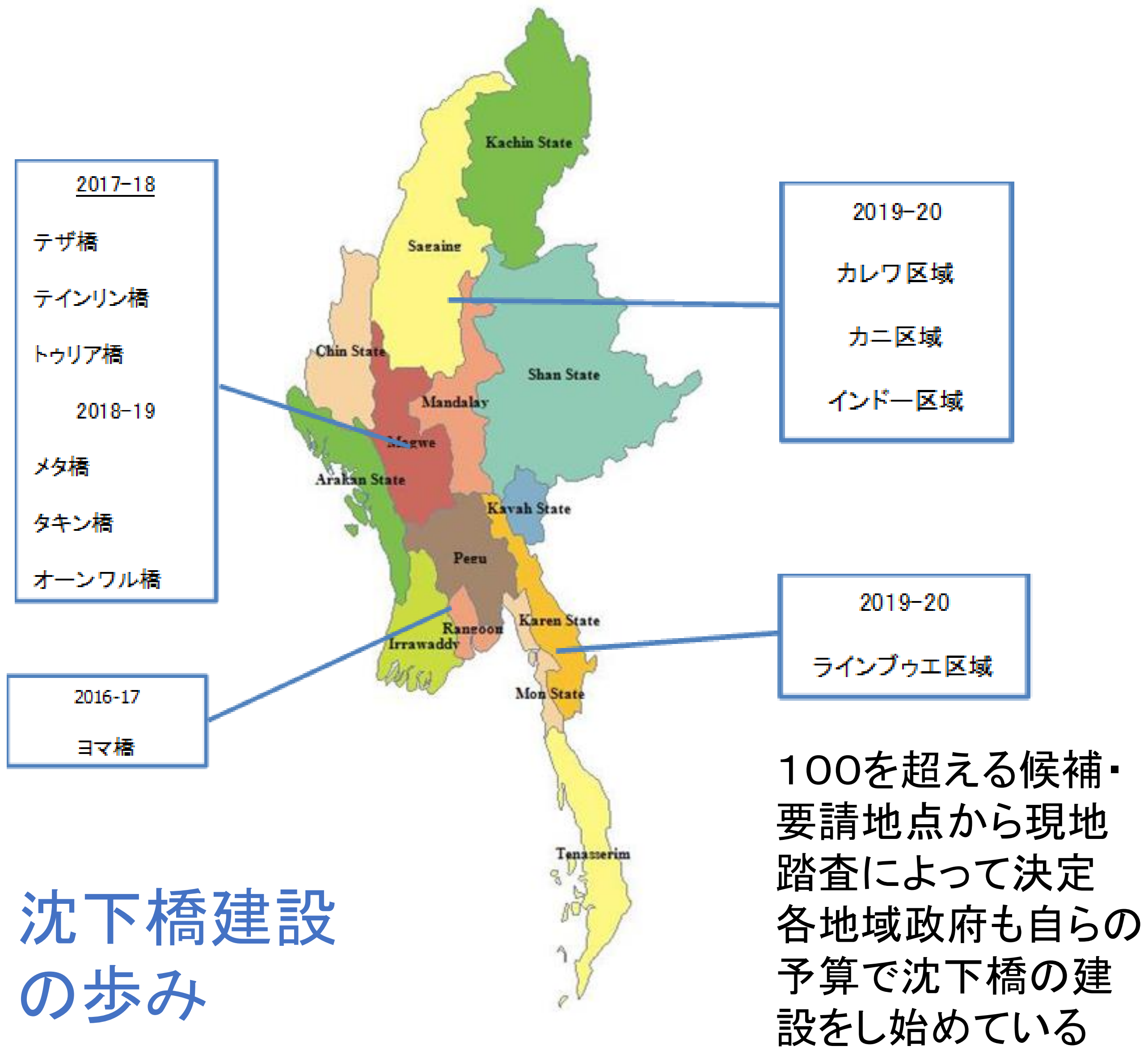


ミャンマー地方部における沈下橋の建設

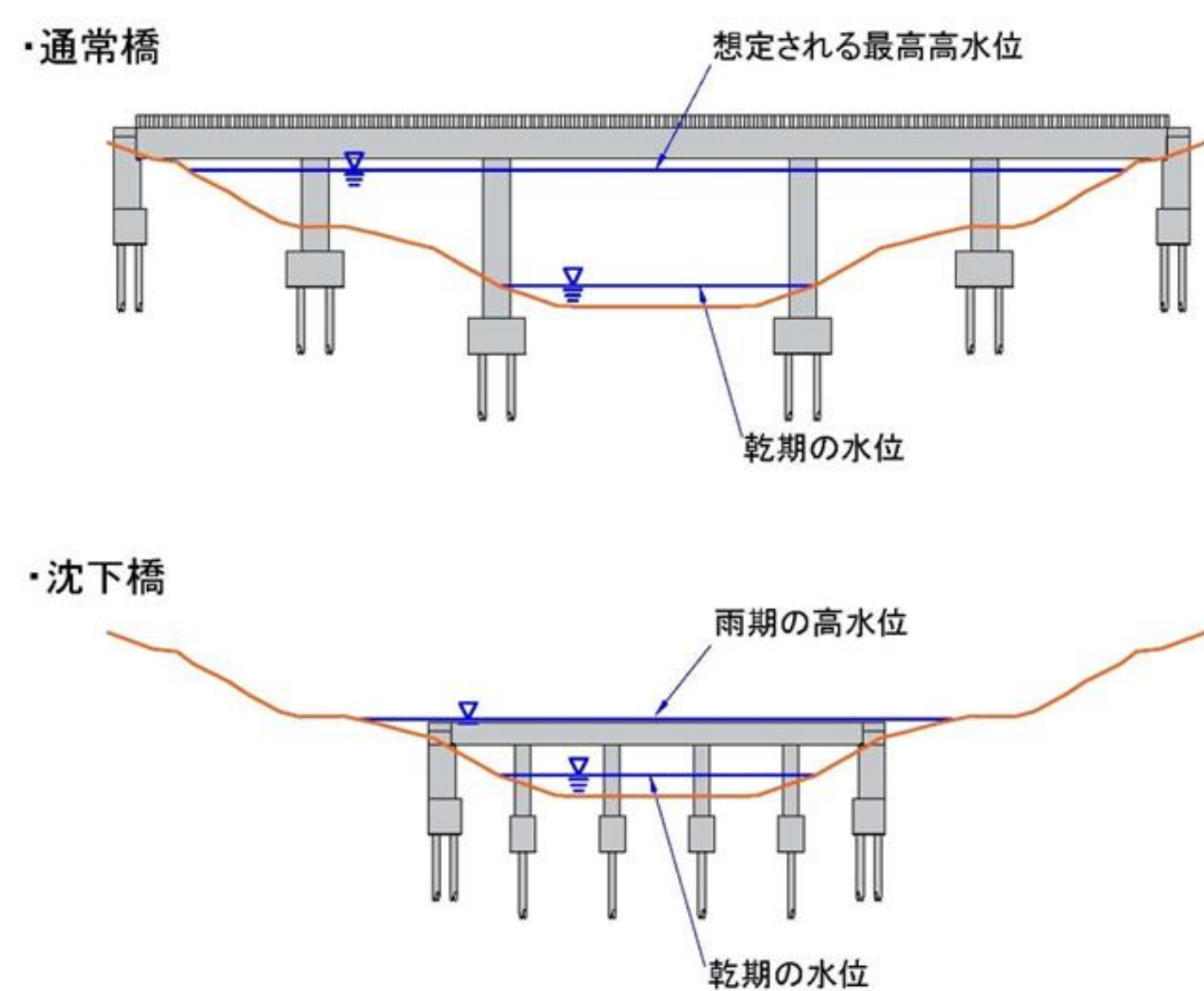


NPO
国際インフラ
パートナーズ



沈下橋建設の歩み

沈下橋とは？ その優位性



- 河川に架ける橋(抜水橋)は、30年~50年に1度の洪水時にも水に浸からないように作られるのが本来であるが、
- 沈下橋は、川原の中で通常水が流れている(ミャンマーでは乾期に枯れていることも多い)水路部分にだけ架橋する。
- 雨期(洪水期)に数回、数時間程度は水に沈んで通行不能になるが、減水したらすぐに通れるので交通の阻害が少ない
- 通常の橋(抜水橋)にくらべて費用が極めて少額で済む
 - 低い位置で作るので基礎などが簡単で済む
 - 延長が短くなるので費用が相乗的に安くなる
 - 洪水流の抵抗を減らすため、構造を簡単にするのでいっそう安い
 - 通常の橋1本をかける費用で数本、ときには10本の沈下橋をかけることができる
 - 地方部でも容易に調達できる材料(セメント・砂利・砂・鉄筋)だけを用い、現場打ち杭を採用しているので施工が容易であり、複雑な付属物がないので維持も容易である
- 全国無数の地方部集落に、早く道路を行き渡らせるのに極めて適している

橋ができた！！



橋を渡って元気に登校

蛇にかまれたKさんはすぐ病院に運ばれて、命が助かった



雨期でも毎日トラックで町や都会に結ばれるようになった
牛車ものんびりと行き来して農業振興

ミャンマーの地方部には橋が無くて苦難が多い



生徒たちは教科書などが水に濡れないように川を渡って登校する
洪水で学校に行けなかったり、休校になるときもある

村人が自分たちで架けた橋が2年続けて流されてしまった
その新聞記事でミャンマーの沈下橋事業が始まった



自動車が渡れる橋を架けているが、雨期には流されてしまうため撤去して、舟で川を渡る。兩岸には車が並んで待っている

住民の期待を浴びて ほぼ半年間、乾期に施工



起工式の日 学童たちに囲まれて

地方部でも容易に入手できる材料を使う
基礎は現場打ち杭でしっかりと



住民多数が集まって喜びの開通式



ミャンマーの人が計画から建設・維持・管理まで



2018年の大洪水のあと膨大な流木を自ら処理する村人たち
「自分たちの橋」になっている

ワークショップで計画の技法について実習
現場見学に訪れたタイエット国立工業専門学校の学生に説明・指導



沈下橋の建設と技術移転は、外務省「日本NGO連携無償資金協力」事業として進められています